

「2022北九州SDGs未来都市アワード」  
活動概要及び選考委員による評価

【別紙1】

① 市民部門

賞の種類	活動名	活動概要	選考委員による評価
SDGs大賞	普通科SDGs探究活動 「夢現∞プロジェクト」	SDGsの実現やSociety5.0の到来に伴って生じる課題に着目し、将来の国際社会及び日本社会における課題の発見・解決に資する知識・技能の習得と、その活用に関わる思考力・判断力・表現力を育成しながら実践につなげている。	学校全体でSDGsの幅広い取り組みを行い、成果発表会の審査員に企業や行政等、多様な分野から地域の方々を迎えて指導・助言を頂くなど、コンソーシアムを最大限活用している。多様な方々が参加するコンソーシアムは、SDGsのモデルとなる。
	福岡県立八幡高等学校	総合的な探求の時間を活用して、SDGs実現のための行動計画を策定し、講演会、取材活動、協議・座談会、実践、成果発表会を実施している。	探求テーマとゴールが1対1にとどまっているので、複合的な視点を涵養（かんよう）していく必要がある。また、北九州市としての特色をより明確にしていきたい。
ESD賞	SDGsと社会貢献の根っこを 育てる ～誰一人残さずできること～	賛同する企業や家族と手をつなぎ、社会貢献の輪が広がるように、使い捨てカイロ・子ども服の回収やフェアトレード商品の使用など、さまざまな取り組みを行っている。	多彩な視点から保育現場にSDGsを導入し、地域の企業・団体との協働の連鎖や広がりが生まれている。0～2歳児とその家族で取り組める内容を企業と連携し、子ども達がキャップ・衣類・カイロの回収を行っており、目標の「小さい時から社会貢献が当たり前」が実現されている。
	キッズ・キッズ保育園	また、子ども達との地域緑化活動を充実させ、20年後、30年後も次世代につながる環境作りを行っている。	今後、協働による活動の広がりや質の向上を図り、子どもの成長にこれらの取り組みがどう反映しているか、その道筋と効果を明らかにしていきたい。

「2022北九州SDGs未来都市アワード」  
活動概要及び選考委員による評価

① 市民部門

賞の種類	活動名	活動概要	選考委員による評価
ESD賞	戸畑高校フードロス削減プロジェクト ～もったいないを ありがとうございます～	<p>企業における1/3ルールや余剰食品の存在を知り、生徒自らフードロス削減プロジェクトチームを立ち上げ、校内でフードパントリーを実施したり、地域の子ども食堂でボランティアをしたりすることで、フードロス削減につながる活動を行っている。</p> <p>令和4年度文化祭でのフードパントリーでは、100kg以上の余剰食品を396人の生徒が家庭に持ち帰り、消費することができている。</p>	<p>生徒のリーダーシップによるフードロス削減に向けた効果的なプログラムが実施されている。さらに、生徒数名から立ち上げたプロジェクトチームから、多くの生徒を巻き込む活動に発展させている。また、食に文房具を加えた点は、学校での活動のモデルとなる。</p> <p>地元の企業や商店などとも連携し、協働団体を増やすと良い。</p>
	福岡県立戸畑高等学校 家庭クラブ		
SDGs賞	だれひとり取り残さない まちづくり 「たかす元気プラン」の推進	<p>少子高齢社会で、誰一人取り残さないことを目的とした「たかす元気プラン」を策定し、行政や大学、地元企業等と連携しながらSDGsの精神で活動している。</p> <p>具体的な取り組みとしては、認知症行方不明者搜索模擬訓練、小学校等と連携してごみゼロ活動、食品ロスとフードドライブ、男女共同参画社会とジェンダー平等学習などを実施している。</p>	<p>地区の元気プランが策定され、それに基づいて高齢者・障害者世帯に対する充実したサポートが展開され、住民すべてがSDGsに向かっている。地域福祉を高める協働型の工夫が多くみられる。</p> <p>4つの目標をつなぐ横断的な構造や活動があると良い。また、元気プランから環境問題などSDGsそのものにも照射し、目標達成に向けて取り組みを深化・拡充してもらいたい。</p>
	高須地区社会福祉協議会		

「2022北九州SDGs未来都市アワード」  
活動概要及び選考委員による評価

① 市民部門

賞の種類	活動名	活動概要	選考委員による評価
SDGs賞	カブトガニの棲む海を未来に！ ～ カブトガニとカブトガニの棲む 海の未来を変える挑戦 ～	生きた化石と言われ絶滅危惧種のカブトガニと、カブトガニが棲む海・干潟を、地域をはじめとする、より多くの市民と連携しながら、北九州の宝として次世代に残すための活動を行っている。「調査・研究」を基盤に現状を把握し、普及・啓発、保全・保護の活動に取り組んでいる。	新たに専門的な協働団体・組織と組んだことは、研究レベルにおいて新しい知見の蓄積と人材育成に貢献している。また、曾根干潟の重要性を学術的なものとして発信している。
	日本カブトガニを守る会 福岡支部	また、「できる人が、できる時に、できる事を」をモットーに、地域住民と協働しながら取り組んでいる。	過去に本アワードを受賞した地元小学校とさらなる連携ができれば面白い。曾根干潟そのものの環境保全にかかる取り組みへと発展してもらいたい。
	くきのうみ こどもフードパントリー	活動場所にさまざまな経緯で集まった食品や品々を、みんなでシェアする活動を行っている。子どもたちとの毎日の活動を、「おもちより」「わけあえば たりる」「ないならないで ないなりに」「もったいないを みんなでシェア」をモットーとしている。	多彩な組織・団体との連携のもと、持続可能な社会づくりに「食」からアプローチし、人材育成にもつなげている。コロナ禍でも工夫をして、頻度を保った継続的な活動をし、「遊び」「学び」を媒介にした活動を展開している。
	特定非営利活動法人 あそびとまなび研究所	子育て家庭中心に食品を預かり、手渡す活動をし、一般市民にも可能な範囲でシェア、参加をお願いしながら継続している。	活動を数値で示す部分（実施回数、提供食材の概算量、届け先個所数など）が増えると良い。今後、ソーシャルビジネスとしてのモデルを確立され、普及啓発に努めてもらいたい。

「2022北九州SDGs未来都市アワード」  
活動概要及び選考委員による評価

① 市民部門

賞の種類	活動名	活動概要	選考委員による評価
SDGs賞	ロシナンテスと共に学ぶ SDGs講座	<p>学校法人鎮西敬愛学園 敬愛小学校の6年生及び北九州市立高校の3年生を対象に、北九州市内における持続可能な社会を構築するための、人財教育・育成を目的として、「ロシナンテスと共に学ぶSDGs講座」を実施している。</p>	<p>自らの団体の活動を踏まえ、その経験知を活かした活動を学校現場で展開しており、国際NGOのノウハウを地域へと還元・交流するモデルとなっている。また、実践型（現地の水を浄水するため、自分でろ過器を作るなど）の探求学習を提供している。</p> <p>参加者の具体的な意識や行動の変化を今後見てみたい。また、連携先を拡大し、SDGsの王道を追求してもらいたい。</p>
	<p>特定非営利活動法人 ロシナンテス</p>	<p>児童や学生は、探究学習の教材として活用し、「自分達ならどのような持続可能性を生み出せるか」を考え、発表している。</p>	

「2022北九州SDGs未来都市アワード」  
活動概要及び選考委員による評価

② 企業部門

賞の種類	活動名	活動概要	選考委員による評価
SDGs大賞	<p>①循環型取り組みから生まれた再生糸を小倉織に「縞縞EARTH」</p> <p>②ハギレ・端材を活用した伝統×SDGs学び「縞縞クリエイト」</p>	<p>衣料回収から生まれた再生糸や漂着ペットボトルなどのクリーンアップ活動で回収したペットボトルを原料とする再生糸など、取り組みから生まれる循環型原料を伝統の小倉織に取り入れて、エコバッグや扇子、はし袋、風呂敷など日常で使いやすいエコアイテムを製作している。また、イベントで回収されるペットボトルを小倉織にして、次回のイベントで活用する活動も行っている。</p>	<p>北九州ならではのリサイクル産業基盤の強み、伝統文化への昇華と多様な主体の巻き込み力が見られる。環境問題を解消する高度な技術開発から、イベント会場や教育現場での実践までSDGsに関わる幅広い取り組みがなされている。また、小倉織のアップサイクルと共に、ものづくり体験の機会（学校等）を創出している。</p>
	株式会社 小倉縞縞	<p>織物工場の製造過程で出る糸の端材や加工の余りハギレで、家庭科教材やアートワークショップ開催などで活用し、子ども達に伝統と環境について学びながら楽しくものづくりできる場の創出に協力している。</p>	<p>サーキュラーエコノミーを目指したESDの深化に向けて、学校のニーズに応えながら引き続き貢献してもらいたい。</p>

「2022北九州SDGs未来都市アワード」  
活動概要及び選考委員による評価

② 企業部門

賞の種類	活動名	活動概要	選考委員による評価
SDGs賞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本一の御用聞き会社を目指す！！</li> <li>・リユース品の買取・販売を通して人と地球の「困った」を解決</li> </ul>	<p>リユース事業を通して、北九州を中心に全ての人が健康な生活と質の高い教育を受けられる社会づくりに貢献している。</p> <p>不用品回収で引き取った、まだ使える家具や雑貨などを海外市場へ輸出したり、講演会や店頭募金で寄付金を集めたりして、市内の児童施設の子どもに良質な教育の機会や施設で使用する備品を提供している。</p>	<p>環境にも人にも優しい取り組みが、複数の事業において実現しており素晴らしい。リユース事業を通して地域との関わりを深め、SDGsの3側面から課題に取り組んでいる。また、これまでの活動を踏まえて、新しい分野にも積極的に取り組んでいる。</p> <p>多様な活動を展開しているので、関わった人数等の数字（定量化）を見える化して活動特性の分析をしてほしい。</p>
	株式会社ライフクリエイト		
SDGs賞	<p>小学校応援団の出前授業を通した 節水意識の啓発</p>	<p>次世代育成活動の一環として、市内の小学校で環境教育を行い、水資源の保全には、つくる人・つかう人の協働が必要なことを啓発している。</p> <p>実験や映像を交えて節水技術の進化を紹介しながら、暮らしに不可欠な水が貴重な資源であることや使用者側の節水意識の重要性を説明し、児童による節水宣言を実施している。</p>	<p>節水の大切さを小学生にも分かるように伝え、企業活動自体がSDGsを実践しており、次世代に伝える役割を果たしている。自らの企業の専門分野を活かした経営とCSRが一本化された活動が展開されている。</p> <p>専門化した教材を強みとして中等教育の現場へ貢献し、「工業の街北九州」の「シックプライド」の育成としての更なる活動に期待したい。また、出前授業以外の取り組みも加え、会社全体の幅広い活動をしてもらいたい。</p>
	TOTO株式会社		

「2022北九州SDGs未来都市アワード」  
活動概要及び選考委員による評価

② 企業部門

賞の種類	活動名	活動概要	選考委員による評価
SDGs賞	日本のバッテリー安全技術で ゼロエミッション社会の実現を 目指す	<p>独自技術を搭載した商用EVの開発・販売を核に据えて、その他の充電インフラ、リユースバッテリーを使用した蓄電池・CIGSソーラーパネル・燃料電池等のEMS事業を活用した再生可能エネルギーを組み合わせるソリューションを提供している。</p> <p>脱炭素社会へ向けたイノベーションの推進や再生エネルギー100%の実現、アジア低炭素化センターを核とする環境改善の取り組みなどを行っている。</p>	<p>本業そのものが脱炭素化社会の実現に向けた事業であり、自らの団体（企業）の専門分野を活かした経営とCSRが一本化された活動の展開となっている。脱炭素に向けて、自社の技術の強みが発揮できている。</p> <p>事業の成果や波及効果が、地域にどう反映しているか検討してもらいたい。また、学校現場等で、地域におけるEV車両の正しい知識を普及する取り組みを期待したい。</p>
	株式会社 EV モーターズ・ジャパン		
SDGs賞	チーム北九州 SDGsな未来へ ～北九州地域の「幸せの実現」を お手伝いし、お客さまから選ばれ 続ける保険会社を目指して～	<p>人生100年時代を迎え、価値観が多様化する今、個々の幸せ実現に向けて、健康増進・高齢者支援・教育支援・女性活躍に貢献することで、地域の成長を目指している。</p> <p>SDGsの目標の多くは、生保事業そのものという理念のもと、花応援活動やまち美化清掃活動、子ども食堂の支援・寄付など幅広い取り組みを行っている。</p>	<p>自らの企業の専門分野を活かした経営とCSRが一本化された活動が展開され、さまざまな活動に取り組み、多くの方々へSDGsの意識浸透を図っている。</p> <p>夢授業・生命保険講座をはじめ、各種イベント・支援先での参加者の感想があればなお良い。また、支店ならではの切り口、地域への関わりポイントをアピールしてもらいたい。</p>
	第一生命保険株式会社 北九州総合支社		

「2022北九州SDGs未来都市アワード」  
活動概要及び選考委員による評価

② 企業部門

賞の種類	活動名	活動概要	選考委員による評価
SDGs 継続賞 (特別賞)	<p>地域共生型ガーデン 「エンジ村」活動 10周年</p>	<p>八幡東区の社員寮に地域共生型ガーデン「エンジ村」を併設し、地域の方と協力して子ども達に農作物・花の栽培やものづくり体験の場を提供することで、企業として持続可能なまちづくりに貢献している。</p> <p>2019年度には「情熱・先端Mission-E」との活動でSDGs賞を受賞し、その後もコロナ禍でもオンラインを併用するなど継続して実施しており、参加した小・中学生からは感謝の言葉が届いている。</p>	<p>子ども達への憩いの場づくり（栽培・ものづくり）から、ごみの再資源化まで教育され、社員にも同好会ができるなど、実践的・主体的な活動が行われている。企業と社会の中間的な関わり方を示している。</p> <p>生き生きとした活動が広がっている様子が活動写真からも伝わり、「持続可能な街づくりに貢献」との目標が実現されることを期待したい。</p>
	<p>日鉄エンジニアリング株式会社</p>		